

33

敦煌卷子医書2点の綴合

沈 澍農

南京中医薬大学

敦煌卷子医書の Dlx.00613 と P.3287 はロシアとフランスに分蔵されている。検討したところ、両者は同一卷子から分裂した二部分だった。主な理由を以下に述べる。

一 文章の連続と一致

ロシアの Dlx.00613 は1枚の残片で、巻首・巻尾および各行下方を欠損し、28行が現存する。うち1～9行は『靈枢』衛氣行、10～11行は『靈枢』五十營、12～16行は『難経』一難、17～28行は『素問』三部九候論に対応文が見え、一部の文字がやや異なる。

フランスの P.3287 は首尾と前部7行下方・後部6行上方を欠損するが、全体としては欠損の少ない149行からなる。うち1～31行は『素問』三部九候論、32～50行は『傷寒論』傷寒例、51～60行は無名氏脈経、61～67行は『傷寒論』弁脈法、67～149行は無名氏脈経に属する。

Dlx.00613 の末尾2行は「上部之人人候耳目之氣上部……(第27行) ○三部者各有天地人故以……(第28行)」で、P.3287 の冒頭2行は「各別九と野と為九蔵……(第1行) 蔵以敗刑蔵以竭者其……(第2行)」とある。対応する『素問』三部九候論の文章は、「人以候耳目之氣。三部者，各有天，各有地，各有入。三而成天，三而成地，三而成人，三而三之，合則為九，九分為九野，九野為九蔵。故神蔵五，形蔵四，合為九蔵。五蔵已敗，其色必夭，夭必死矣……」で、Dlx.00613 と P.3287 の文章が連続している。さらに伝世本『素問』下線部と敦煌本は一部で文字が異なるものの、全体では一致していた。

二 行幅の一致

ロシアの敦煌学者メンシコフ Лев Николаевич Меньшиков 主編『アジア民族研究所蔵敦煌漢文写本解説目録』によると、Dlx.00613 は18×44.5 cm とある。この寸法が正確ならば当卷子は28行あるので、毎行の幅は約1.57 cm となる。

一方、IDP(国際敦煌プロジェクト)のウェブ公開データベースは、P.3287 を29×150.5 cm とするが、この寸法は疑わしい。IDPが画像公開するP.3287の第1図上にあるスケールで測定すると、約18 cm ごとに11.4行がある。すると行幅は約1.57 cm で、原本の全長は約236 cm となる。したがって両卷子の平均行幅も大体一致していた。

三 紙幅の一致

卷子本に一定の長さの内容を書写するとき、1枚で十分な長さの料紙は通常ないため、料紙を貼り継がねばならない。その継目を各卷子の図版で見ると、Dlx.00613 は16行前、P.3287 は14行前・40行前・66行前・92行前・118行前・144行前にあった。P.3287の6料紙のうち5枚には各々26行があり、Dlx.00613の継目以降とP.3287の第1継目前には各々13行がある。つまり両卷子に貼り継がれた料紙1枚は、ともに26行(×1.57 cm)の紙幅だった。これより両者の相関性がわかる。

四 その他の一致

両卷子は書式が一致し、字形・筆跡もよく似る。欠損した部分は高度に吻合し、綴合部位の曲線もかなり近似していた。以上より、両残巻は本来同一の卷子にあり、断裂した二部分だったことが証明される。